

# 柏尾の風



横浜市立柏尾小学校

学校便り

9月号

令和5年8月28日

## どちらが真実？ どちらも真実？

校長 古沢昇一

長い夏休みが終わり、元気な子どもたちが帰ってきました。朝夕は少しずつ過ごしやすくなってきましたが、今年の夏はとても暑く、台風が上陸し豪雨の地域がありました。いかがお過ごしだったでしょうか。

今年の夏の甲子園は、神奈川県代表として慶応義塾高校が出場して優勝しました。甲子園はとても盛り上がり、神奈川県代表の高校が優勝したので嬉しくなりました。一方で話題となったのが、神奈川県決勝戦でのプレーでした。横浜高校が5対3でリードして迎えた9回表ノーアウト1塁の場面で、慶応の選手がセカンドゴロを打ち、ダブルプレーかと思ったところ、1塁は打者走者の足が速くセーフとなりました。2塁はアウトと思われましたが、セカンドからボールを受けたショートの選手の足が2塁ベースを踏んでいなかった(触れていなかった)と判定され、オールセーフとなり、その後慶応高校に逆転3ランホームランが出て、慶応高校が優勝して甲子園に出場し全国制覇しました。横浜高校のショートの選手はプロでも注目されており、U18の全日本代表に選ばれた選手で、とても上手く2塁ベースをつま先でかすめて1塁へ投げたように見えました。しっかりベースを踏むと遅くなり、1塁がセーフとなる可能性が高くなり、とても素晴らしいプレーだとプロの解説者が解説していました。また、あの場面でベースに触れていない場合は、投げずに踏みなおすとも言っていました。実際にそのプレーをしたにもかかわらず、1塁はギリギリのタイミングでセーフとなりました。何十回も何百回も練習してきたプレーなので触れていないはずがないとのことでした。触れていたかいなかったかは、どちらが真実なのか分かりません。ベースの角で見えにくい状況でしたが、「触れていなかったと見た」のが審判から見た真実で、「触れたから1塁へ投げた」のが選手の真実と考えられます。プロのようにリクエストができ、映像で確認したらすっきりしたかもしれません。

今回のプレーで次のようなことを改めて考えました。子どもたちにトラブルが起きた時に、AさんとBさんのいうことが異なる場合があります。話をよく聞いたり、他の子からも聞いたりすると、どちらかが本当のことを言えてなかった場合や、勘違いをしていた場合があります。また、何度確認しても異なる場合があります。この場合はAさんもBさんも自分から見た真実を言っているのでしょうか。真実の一つですが、一致するとは限りません。このようなこともあることを踏まえて、一人ひとりの話をよく聞いて寄り添い、子どもたちを支援・指導していきます。